

## 健全母性育成事業の新たな展開に関する研究Ⅱ

石井千恵子<sup>1)</sup>，藤井 信雄<sup>2)</sup>，古谷 章恵<sup>3)</sup>，佐々木真寿美<sup>4)</sup>  
田所 文夫<sup>5)</sup>，長谷川 進<sup>6)</sup>，小椋 末子<sup>7)</sup>，白鳥 順子<sup>8)</sup>  
宮川 幸子<sup>9)</sup>

### 要約

神奈川県では、昭和62年度より思春期を軸とした健全母性育成事業を実施してきた。相模原保健所管内の思春期保健事業について第1報で報告した。今回は性教育に対する親の意識を調査した結果、性教育は「性の教育」と狭義に考えていることが判った。

しかし、性教育は「生命を大切に相手思いやる心」の理念に立ち幼児期から、性教育の準備を開始する事が重要と思われる。

### 見出し語

思春期保健事業、親の性教育に対する意識調査、性教育に対する親の姿勢

### 研究目的

思春期保健事業推進の為に、昭和61年度より関係機関との連絡会議を継続してきた。この中で現状と問題がだされた。

青少年相談センター、児童相談所、警察から思春期におこる問題として家出、非行、性非行シンナー依存、妊娠等さまざまな状況が話され個別指導、集団指導での連携が強調された。

試みに相模原市医師会長は小学校5年生に性教育を実施した。その結果親子で話すきっかけとなり、子供と同じ視線で分かる言葉で話すことが大切である等が報告された。

一方学校では、教育委員会が手引き書を作成し性教育実施の段階に入ったが、現場では戸惑

いがあり手引き書に合わせて検討しているが、このなかで、親と児童生徒の二面の教育が必要であると報告されている。

この会議の結果、親への教育は保健所では是非実施して欲しいとの役割がはっきり出された。

親への教育の為に性教育に対する意識を把握し、今後の事業の推進の方向をさぐりたいので幼児と小学生を持つ親に対する意識調査を実施した。

### 調査1

対象： 小学5年生のを持つ親(藤沢市内)

方法： 集団教育参加時 紙面によるアンケート調査

調査人員： 集団教育参加者 213人

1) -4) 藤沢保健所 5) 相模原医師会長 6 -8) 相模原保健所 9) 看護教育大学校

質問1 家庭での性教育は必要か。

性教育が必要(212人) 無回答(1人)  
 性教育が必要と答えた内訳 (212人)

いやらしい 17人  
 判らない 73人 (54%)  
 無回答 26人

内容(73人複数)

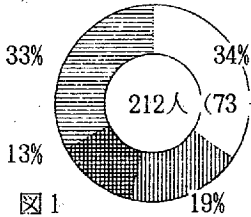


図1

命の大切さ72人  
 月経 47人  
 赤ちゃんは  
 何処から41人  
 男女交際 16人  
 精通現象 2人

□: 指導した(73) 〇: 指導しかたが判らない(29)

||||: チャンス無し(41) ≡: 質問時答える(69)

質問2 子供から性の質問を受けたか。(213人)

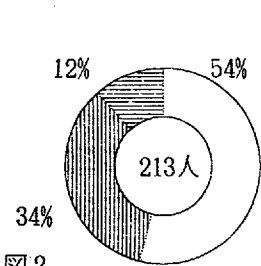


図2

□: 質問の内容  
 赤ちゃんは何処か  
 ら、男女ちがい  
 テレビのシーン等

□: 受けた(115人) 〇: 受けない(72人)

≡: 無回答(26人)

質問3 精通現象について(213人)

知っている 93人 (43%)  
 知らない 80人 (38%)  
 無回答 22人 (19%)

質問4 包茎について(213人)

知っている 139人 (43%)  
 知らない 52人 (38%)  
 無回答 22人 (19%)

質問5 マスターベーション(213人)

当然 97人 (46%)

結果

小学生の親の意識調査の結果、性教育を行っているものは73人(34%)で、その他は質問されたら答えようと思う、指導の方法が判らないを含めて139人(66%)は実際に行っていない。

しかし質問されたかの問いに対して、115人(54%)は質問を受けたと答えている。

この内30人(26%)は、判らない、ごまかしたお腹から生まれる等答えた。

特に男子の性の認識程度を知るため精通現象、包茎、マスターベーション等について質問したところ知らない、いやらしい、等無回答を含め50%以上となっている。

II 幼児を持つ親の意識調査(藤沢市内)

対象: 3才児健診に来所した親(132人)

方法: 紙面によるアンケート

質問1 家庭での性教育は必要か(132人)

必要 —— 125人(95%)

不必要 — 7人(5%)

性教育は必要と答えた125人(95%)の内114人(86%)は未だ早いと思っている。

この114人の内訳

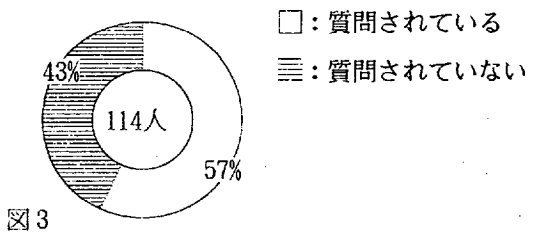


図3

□: 質問されている  
 ≡: 質問されていない

質問2 身体を清潔にするための教育について

(1) 包茎の意味を知っているか(132人)

知っている 103(78%)

知らない 15(11%)

無回答 14(11%)

(2) ペニスの皮をむいて洗うか

知っている 14(22%)

知らない 51(78%)

(3) 排泄後の拭き方を教えているか

	計	男児(65)	女児(67)
教えている	101	42(65%)	59(88%)
いない	30	22(34%)	8(12%)
無回答	1	1(1%)	

結果

まだ早いと答えた114人の親の内65人と不必要と答えた親6人中4人を併せて69人(58%)は、既に3才児から赤ちゃんは何処からくる等の質問を受けている。

正確に対応した人4人のみ、お腹が切れて、お母さんのオムツ、ママのお洩らし、おしりがきれちやった、コウノトリ等いろいろな答え方をしている。又身体を清潔にするための教育について男児への教育は不足しているが、女児への排泄後の教育は出来ている。

### Ⅲ 3才児健康診査時における性教育の試み

(相模原市内)

幼児期からの性教育の動機づけとして、命と性のお話シリーズ～『赤ちゃんはどこから』を作成した。

調査方法：3才児健診来所時にパンフレットを配付し、電話連絡のとれた123人にパンフレットの効果と親の受け止め方について電話で聞き

取り調査を行った。

(配付後概ね1週間後)

質問1パンフレッドを読んだか

読んだ 読まない 計

81(66%) 42(34%) 123(100%)

読んだ81人のうち、

参考になったと答えた親 53人(66%)

特になし 23人(28%)

無回答 5人(6%)

出生別にみたパンフレットの感想

項目	計(81)	第1子(43)	第2子(38)
参考になった	53(65%)	36(84%)	17(45%)
分かりやすい	12(12%)	6(14%)	6(16%)
他に読ませる	7(9%)	5(12%)	2(5%)
驚いた	5(6%)	1(2%)	4(11%)
必要	3(4%)	---	3(8%)
特になし	23(28%)	11(26%)	12(32%)

結果

パンフレット配付後読んだ親は66%であったその内第1子の親36人(84%)が参考になったと答えている。今までに答えに戸惑う質問があり曖昧に答えたり、困った経験があると答えた親23人に尋ねたところ、参考になったと答えたものの15人(65%)であった。

まとめ

保健所の役割として親への集団指導をおこなう為に、小学生、3才児の親に対し性に対する意識を調査した結果、両者とも性教育は必要と認識しているものの、「質問されたら答える。」の回答が多数を占めている。しかし、すでに質問されている親の数も顕著であることから、性の問題だけをとらえ、性教育と認識している

と考えられる。子供が何気なくする性の質問に対し親の大半は準備が出来ていないので、正確に答えている親は少ない。

性教育は「生命誕生の教育」という認識に立ち、「命を大切に相手を思いやる心を育む」教育を幼児期から機会をとらえ具体的親子のふれ合いの中で行っていくことが大切である。

現に保健所では10代後半になって包茎や性器の悩みの相談も多く受けている。一つの試みとして3才児健診に、パンフレットを配付して親の反応を確認したところ「こんな風に話せばいいのか」と意識づけになったと答えている。

現在の3才児健診の受診率は、両保健所共90%を超える高率を占め発育、発達、病気の早期発見のみに重点がおかれている。

しかし幼児期は、さまざまな事に興味をもち始め質問期に入る。このような時期に機会を捉えて、思春期の準備として幼児を持つ親を対象に教育を行なうことが学校現場の期待に沿うことができると考える。

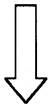
保健所は、連絡会議を開催し学校、専門機関、及び関係機関でそれぞれの役割を果たすための連携を強化する事が地域保健向上の為の大きな役割である。

### ライフサイクルにおける思春期保健

思春期保健連絡会議 ⇨ PTA、専門相談機関、学校、青少年相談センター、医師会、教育委員会、市関係課、児童相談所、警察等 ⇨ 集団指導 ⇨ 個別指導

	発 達 と 課 題	保 健 所 事 業	対 応
乳 児 期	母子関係 育児不安 離乳期 障害児の受容 生活のリズム	3か月児健診(乳児健診 お誕生日健診 母親教室同窓会、 離乳食教室)	
幼 児 期	母子関係 家族関係 自我の芽生え 発育発達の問題 排泄の自立 食べない 噛めない 友達いない 友達と遊べない	3才児健診 育児教室 歯科教室	性教育の準備期 性教育の始まり 性の質問への対応
小 学 生	友人関係 第2次性徴 心身の変化への戸惑い 外遊び 集団遊びの減少 親の意識と子供の実態のギャップ	思春期セミナー 思春期相談	性教育の実施(学校) 思春期を迎える準備 正確な知識の提供
中 学 生	自我の確立 親離れ 異性関係	思春期セミナー 思春期相談	保健所と学校関係機関の性の教育の立体作戦、 親の教育は保健所(地域)
高 校 生	精神疾病 非行 妊娠 中絶 退学 思春期のやせ症 拒食症 過食症 アルコール 煙草の問題	性病予防講演会、 精神保健相談 アルコール講演会	児童生徒の禁煙、禁酒の教育(学校) 病気の早期発見 禁煙 煙酒の教育 専門相談機関の紹介
成 人		若年妊産婦訪 母親教室	

参考文献: 保健婦雑誌 1990 Vol146 No8、性教育の手引き 相模原教育委員会



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 要約

神奈川県では、昭和 62 年度より思春期を軸とした健全母性育成事業を実施してきた。相模原保健所管内の思春期保健事業について第 1 報で報告した。今回は性教育に対する親の意識を調査した結果、性教育は「性の教育」と狭義に考えていることが判った。

しかし、性教育は「生命を大切にして相手を思いやる心」の理念に立ち幼児期から、性教育の準備を開始する事が重要と思われる。